



2018 Code of Points

Questions and Answers: March 2018




Generalities

総則

1. 選手が1本のクラブを演技面外に落下した。選手は予備手具の1本のクラブを使用し、選手がもともと使用していたクラブを置いて2本目のクラブを使用した(同じペアのクラブを使用したことになる)。減点は何点か？
0.30 + 0.30(2本は別々に2回であり、取り戻しに時差があるため)
2. この場合、減点は何点か？：クラブの団体演技において、2名の選手がそれぞれ1本ずつ、同じまたは異なるラインを超えて演技面外に落下した。
0.30 + 0.30
3. 1名の選手が2本のクラブを同時に落下し、それぞれのクラブは異なるラインを越えてフロア外に出た：誰が減点を与えるか？
1度のみ-0.30(8ページ、#3.2)、そして上級審判団はどちらの線審が減点するか確認すること。
4. 選手はレオタードに加えて“くつ下”または装飾したレグウォーマーを着用することは可能か？
いいえ、なぜならレオタードは1つつなぎになっていなければならないから。
5. 個人演技にて：BDグループを実施していたとしても最も高いものから9個にカウントされなかった場合、減点はあるか？
“身体グループの欠如”の減点はない、(例：ローテーション)演技中のピボットが最も高いものから9個にカウントされなかったとしても、演技中にピボットを実施していれば良い。

D1-D2

1. 審判はどのように 10° の誤差(0.10)と 11° の誤差(0.30)の間の違いを判断すれば良いか？
 角度についてはあくまでもガイドラインである。審判は小さい、中くらいそして大きい減点の見極めを習得しなければならない。
2. BD 中のリングの位置：足を接触するのは頭のどの部分でも良いか？
 はい。
3. リングを伴った開脚リープで、開脚に小さな誤差、とリング位置にて小さな誤差があった場合、技術的減点は何点か？
 技術的欠点：-0.10(開脚における小さな誤差に対して)と-0.10(リングにおける小さな誤差に対して)15 ページ#2.3.1 参照、BD は有効とし、“各不正確な身体位置”の技術的実施減点を伴う。
4. リングを伴った開脚リープ：リング位置にて中くらいの誤差(0.30)と、開脚の前脚にて中くらいの誤差(0.30)があった場合。0.60 の減点か？
 はい、技術的欠点は 0.30+0.30；BD は中くらいの誤差があっても、有効である。
5. 追加の不正確な身体位置(開脚またはリング、など)、選手がシーソーの動きを伴ってリープを実施した場合、実施技術審判は誤差を伴った不正確な形とシーソーの動きを減点するか？
 はい、審判は“誤差(小さい、中くらい、大きい)を伴った不正確な形”(各身体位置は#2.3.1 に準ずる)と“シーソーの動き(小さい、中くらい、大きい)伴った形”の双方を減点する。
6. これらのジャンプの実施に対して D の価値と技術的欠点は何点か？

D: 0.30	D: 0.50	D: 0.50
技術的欠点：-0.50	技術的欠点：-0.30	技術的欠点：-0.10
		

7. 上記の例に加えて：選手が演技後半に — を実施した場合、このジャンプは有効か？

いいえ、これは1番目のリープの繰り返しとなるため無効であり最も高いものから9個に含めることはできない。

8. 選手がリープで“不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”を実施、このため前脚の着地が重かった場合、実施技術審判は0.30(後ろに傾いたままの着地)+0.10(重い着地)を減点するか？

“不正確な着地：着地の最後において後ろに傾く”を伴ったジャンプの多くは前脚の重い着地も伴っている；従って、着地の減点としては各ジャンプに1つの減点のみ与えるのが良い；着地の最後において後ろに傾く場合-0.30；重い着地(着地の最後において後ろに傾いていない場合)-0.10である。

9. #20 ジャンプ難度について。開脚リープ、またはリングまたは胴の後屈を伴った、または踏切と着地が同じ脚(Zaripova)について。“Zaripova”では“開脚”と“リング”が見えなければならないか？

はい、これら両方の基準が必要である。

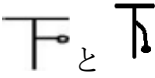

10. バランス難度を小さいまたは中くらいの誤差を伴って実施した場合でも、“明確な”形としてバランスは有効か？

はい、#2.3.1を参照。小さいまたは中くらいの誤差を伴った形でも、形が見えるものであれば技術的欠点(複数)を伴ったとしても有効である。

11. バランス難度：選手が静止位置を見せなくても、バランス難度は有効か？

#9.1.2：

“形が明確で手具要素を正確に実施したが(例：支持なしでの側方開脚にてゴールの突きを伴う)静止位置が不十分な場合、バランスは有効となるが技術的实施減点を伴う(-0.30“形が最低1秒間保持されていない”54ページ)。

12. バランス：と：胴の位置がこれら2つの形の間である場合、これを形の誤差と判断するのか？

いいえ：#8のバランスは胴を“水平面またはそれ以下”；従って、水平面またはそれ以下のどの位置であっても形の誤差を伴うことなく有効である。

13. #23のバランスでは、最初の形で静止位置は必要か？

いいえ、これはダイナミックバランスであり、バランスのどの場面でも静止位置は必要でない(#9.1.2、C)。

14. ダイナミックバランスで静止位置を伴って実施した場合、何か減点があるか？

減点なし。

15. 選手が静止位置を伴い正しい手具操作でバランスを実施した後に、片手で支えてしまった場合、BDは有効か？

いいえ：バランス位置のどの場面であってもバランスを失って支えた場合は無効である(#2.2.3 参照)

16. #10.1.2 について：“ローテーションは、実施された回転数にて評価される。中断(ホップ)があった場合、中断の前までに実施された回転の価値のみが有効となる。”移動を伴わないホップ(複数)と移動を伴うホップ(複数)の後のローテーション(複数)は有効か？

-0.1 移動を伴わないホップ(複数)：はい、有効である；-0.3 移動を伴うホップ(複数)：無効である。

17. ピボットの回転中、選手がルルベで実施しているときに回転中の一部にて踵の支持を伴った場合、難度は有効か？

10.1.2 には、ローテーションは実施された回転数によって評価されるとある。基本回転に満たないローテーションが中断を伴い実施された場合、難度は無効である。最初の基本回転後のあとに実施された回転中に中断があった場合、中断の前までに実施された回転の価値のみ有効である。


18. ローテーション難度中、最低基本回転終了前までに、形に達していること(#10.1.7)：この意味は基本回転終了までに形が見えれば形に誤差を伴う基本回転にも有効か？



はい、基本回転終了までに形が見えれば良い。しかしながら、このローテーションの場合、形は最終位置にて1度形が確認できれば良い。

注意：形の誤差は回転の準備段階とは異なるものである。



19. において腕が脚と接触する必要があるか？

いいえ、腕が接触する必要はない。開脚と胴の後屈が水平面以下であることが必要である。

20. リングを伴ったパンシェピボット中、最初の回転でリング位置に小さな誤差があり、2回転目で誤差はなく、3回転目でリング位置にて中くらいの誤差があった：技術的欠点は何点か？

中くらいの誤差-0.30、1つのBD中における同じ身体位置に対しては1回のみ減点。

21. 支持を伴うリングピボット中にボールが背中にある場合、脚のどの部分でも頭に接触していれば良いか？

はい；BDとして頭と脚の間に接触が要求される。脚は頭のどこかの部分と接触していれば良く、髪型(“束ねた髪”)でも良い。

22. 22 ページ注意：“たとえ1つの手具要素に2動作があったとしても、1つのBDのみ有効にできる。”これは正しいか？：ボールの同じ突き(突きと突きの後の受け)を2つ続いたバランスで使うことはできない—例、1つ目のバランスで突き、そして2つ目のバランスで受ける。

正しい。

23. リボンに小さな結び目ができた場合、BDは有効か？

無効。なぜならこの技術的欠点は-0.30である(BD #2.2.3、ダンスステップ #4.4、AD #6.2.3 参照)

24. ダンスステップ：5.4.1にあるプレアクロバット要素とイリュージョンのみがダンスステップでは許可されない要素か(記載されていない他の回転要素はダンスステップ中に許可されるか？)

#5.4.1と#5.4.2にあるものはダンスステップ中に許可されず、プレアクロバット要素にあるものも実施することは許可されない。

25. ダンスステップコンビネーション(S)中、選手は動きの様式を2回変えたが、高さ、リズム、または方向の変化がなかった。このダンスステップコンビネーションは有効か？

いいえ、なぜなら1つの多様性が欠けているためである(4.1.3)。

26. 選手がダンスステップコンビネーションを実施し、8秒間中すべての必須要素が入っていた；その後、ダンスステップを続けたが手具を落下した。ステップは有効か？

はい、最初にすべての必須要素が入っていたので有効である。

27. 選手がジュッテジャンプ中に脚の下でボールを右手で突いて左手で受け、その後バランス中に身体の前方で突き実施した。これは異なるものとみなすか？

はい、異なる。

D3-D4

1. 選手がフープを意図的に手首または前腕で受けた場合、たとえ“手以外”は有効でないとしても、“回しながらダイレクトに受ける”は有効か？
はい。回しながらダイレクトに受ける(意図的な腕での受け)であるが、“手の補助なし”の0.10の加点はない。他の部位(肘など)での受けは“手の補助なし”となる。審判は振付の一部(次の動きにスムーズなつながりがある)として認識した場合、不正確な受けとしての技術的欠点は与えない。
2. シェネまたは側転または転回において手具を受ける場合、“不正確な軌道”の減点が適用される不正確な終末のステップとして何歩許可されるか？
シェネから：選手はターン位置から脚を開かなければならない—これは許容ステップといえる。選手がシェネまたはプレアクロバット要素にて許容ステップを超えて実施した場合、容認できるが、その動きが手具の落下を防ぐために実施された場合は、これは不正確な軌道となる。
3. 選手がAD中、手具が空中にある最中に振付されたステップまたは構成された身体の動きを行った場合、不正確な軌道による減点は与えない。これは正しいか？
正しい
4. 選手がRの最終回転にて手具を受けた例：イリュージョンまたは側転または前転、しかしこれが視野外での受けでなかった場合、Rの回転として、とその他の基準、軸の変更や投げ返し(“回転中の受け”が不可能であっても)は有効か？
はい
5. 水平面を伴う手具の投げでのAD：“選手の身長を2倍を超える”高さが必要か？
大きな投げのAD 0.3 に対してのみである。
6. 選手が受けの最中にロープの片端を失い、演技を中断した場合、Rはカウントされるか？
はい(Rの定義に従って)。
7. Rでのリボンの受けの最中、スティックでなくリボンの一部を受けた場合、Rはカウントされるか？
はい(Rの定義に従って)。
8. 選手がRの基本必須条件を実施したが、手具の受けにて転倒した場合、Rは有効か？
はい(Rの定義に従って)。

9. 選手がリボンで小さな結び目ができた場合、結び目があっても R は有効か？

有効である(#5.1.2 と#5.1.4 参照)

10. AD の手具の投げの高さについて：選手が完全に伸ばした状態でリボンを外側（上ではなく）へ投げた場合、これは中くらいの投げか？

はい。

11. 基礎ではない転がし要素、例えばクラブ／リボンの転がしは、6.3.2 による最低でも身体上の大きな 2 部位を転がした場合に AD として 0.30 として有効となる、正しいか？

はい、0.30 の価値である。

a. 1 本または 2 本のクラブの最低でも身体上の大きな 2 部位の転がし

b. リボンのスティックの最低でも身体上の大きな 2 部位の転がし

注意：

- 1 本または 2 本のクラブの身体の一部位上または床上の転がしは AD 0.20 として有効である。
- リボンのスティックの身体の一部位上の転がしは AD 0.20 として有効である。

12. AD 要素に 2 つのベースがあった場合、審判はどのように価値を与えれば良いか？

正しく実施された最も高いベースの価値である。

13. 正しく実施された場合、2 つの AD(投げの AD と、この AD の受け)の価値を得られるか？

はい、異なるベースであることと異なる基準であること。

実施芸術

1. 選手が演技全体において身体の一部位の使用が不十分であったが、部分的または全身での波動(身体の一部位の使用はこれのみ)があったとき、減点は何点か？

0.10 身体の一部位の使用が不十分である。

2. 選手が身体の部位を積極的に使用し顔の表情もあった(減点なし)が、2つの“波動”がなかった場合、0.20の減点があるか？
はい、0.20の減点である。なぜなら最低2つの異なる身体波動(部分的または全身)が必要であるから。
3. 選手が1つの波動しか実施しなかった、0.20の減点は発生するか？
はい。

技術的实施欠点

1. “手支持での歩き(-0.30)”の減点が入るのは、どのような場合か？
 - 手支持での歩き：ステップを伴って片手からもう片方へはっきりと支持を変更した場合、最低2歩
2. 手具が空中にある投げの下で“不正確な軌道、1歩(または2歩またはそれ以上)の移動を伴う受け”の技術的欠点として減点につながる“ステップ”とはどのようなものか？
 - ステップが手具の落下を防ぐためのものだった場合(例：前方に非常に遠く、また逆方向など)減点される。
 - ステップが構成として行われている(動きの特徴がある)場合は、減点なし。

GROUP 団体

D1-D2:

1. 最高9個のBD/ED：団体競技において9個を超える追加の難度は許可されるのか？

#1.7 難度の必須条件では、BDとEDの最低数(4個と4個)、合計最高9個、1個は選択によるとリストに記載されている。EDとBDは実施順にカウントされ(65 ページ、#7.1)、EDまたはBDは5個を超えてカウントしない。団体において5個を超えて実施した場合、これらのEDまたはBDは無効とし、また構成とし

ては構成の統一性における芸術的減点が発生するリスクを伴い、技術的欠点も伴う可能性がある。

2. 団体演技において6個のBDと6個のEDがあった場合、減点はない；しかし審判は最初の難度、または最高の難度を評価すべきか？

有効または無効であったとしても、“実施順に” (#7.1)最初からの5個を評価。

3. 団体演技において7個のBDと2個のEDだった場合、4個より少ないEDの減点はあるか？

はい。4個より少ないEDの実施として減点がある-0.30 (#7.1)そして実施順の最高5個のBDのみが評価される。

4. 団体演技において9個のBDと0個のEDを、4個より少ないEDの実施の0.30を伴って実施することが可能か？

最高は9個の難度、最低4個のBDと4個のED（1つは選択）を伴って実施。団体が4個のEDに欠けるとして-0.30の減点を伴い0個のEDだったとしても#1.7の規定により5個のBDを超えることはできない。

5. BDがサブグループにて素早く連続的に実施された場合、減点はあるか？

#2.1.3にてBDはサブグループでの実施はできないことが明記されている。しかし、演技を異なるフォーメーションにて素早く連続的に実施することはできる。

6. #2.2.2によると：“選手間において大きな手具の投げ(ブーメランでなく)による交換のみがEDとして有効である。大きい投げは高さまたは選手間6mの距離が必要である”。5名の選手が6mの距離にて低い投げで交換したが、しかし2名のサブグループの選手が6m以下の距離にて行った。これは有効か？

いいえ。

7. 6mの距離の基準について：“距離：投げと/または受けの最中に交換する各そして全ての選手間に6mの距離があった場合(振付の一部として実施された場合)EDごとに1回有効。”(#2.2.6.3)。#2.2.6.3を明確に伝えてほしい。：交換する選手同士で6mの距離が必要。

8. 交換中選手たちが 0.10 のバランス難度で投げたが、1 秒止まっていなかった：
BD の基準はこの場合も有効か？
BD の基準では、形が認識できればその BD(基準)は有効とするが、技術的欠点 0.30 も与える。
9. 0.3 または 0.5 の不正確な軌道による減点を伴った ED は有効か？
有効 (59 ページ#2.2.5 参照)。
10. 6 本のクラブと 2 つのフープの団体において、クラブのみで交換を行うことは可能か？
はい、ED の必須条件にあてはまっていれば良い。

D3-D4

1. CC の最低 2 つの受け渡しは各選手かまたは団体としてか？
各選手ではなく、団体全体として連係中に最低 2 つの異なる受け渡しを行うこと。
2. CC：1 つ目の受け渡しが投げを伴った、そして 2 つ目が転がしを伴った。CC として有効か？
はい、中くらいか小さな投げだった場合のみ有効。
3. 団体において連係中に最低 2 つの受け渡しを実施（突き返し、転がし、など）したが、連係の最後に 1 名の選手がパートナーに大きな投げを実施した。CC として有効か？
いいえ。
4. #6.2.2 について：“5 名すべての選手が、直接的に/または手具に意味を持たせて関係していること”。例：3 名の選手が CRR を実施、他の 2 名の選手が CRR とは別に異なる連係を実施、この場合の連係は 5 名の選手が 1 つの連係に参加していないとして無効：“異なる連係”の意図することは何か？
- “異なる”という意味は 2 つあり、各々の連係が同時にサブグループにて実施、その“異なる”サブグループ間の何らかの関係があった場合のみ有効、この場合は最も低い価値で実施された連係が有効となる。
 - 1 つの連係（例：CRR）を実施することも可能、2 つのサブグループに分け（関係なしで）、同じ動きの種類を伴い（回転、超える、など）互いが連係の主動作の定義に従って実施。例：[Click here](#)

5. 1名の選手がCRにて視野外・手以外を実施、2番目の選手が回転を実施したが手具の投げが回転後であった。これはCR、CR2として有効かまたは無効か？

定義に従って実施されたもののみを与える。：この場合はCRとして評価することが妥当である。

6. ジャンプまたは回転要素中に、2つまたはそれ以上の手具を脚の下から異なる方向へ同時に投げる：これは視野外として有効か？

はい。

7. 手具の上を超える場合、手具は単に床上に置かれてはならず、最低でも膝の位置まで上げなければならない。これは床上にて動いている手具にも必要か？

床上で動いている手具には必要ない。

8. 床上に手具が置かれていた場合、その関係は有効か？

無効

共同作業（芸術的構成要素）

1. 共同作業の種類が欠如に対する減点がないという解釈は正しいか？以前の減点表：“共同作業が1つまたはそれ以上欠けている”。この意味は、各構成に最低1つの共同作業は必要ないということか？

異なる関係の種類の間でのバランスを必要とする。

または“1つの種類の乱用…”の減点を与える場合の意味は、1つの種類が欠如した場合に与えるのか？

1つの種類が欠けたことへの減点はなく、バランスが必要であることが記載されているのみである。演技の大部分において1つの種類しかない場合、“1つの種類の乱用…”の減点となる。

技術的实施減点

1. 個人選手に対する全ての減点、“基礎技術”は、団体競技にも適用されるか？

#6 からの減点はミスをした選手数に関係なくそのつど減点される（一括減点）。

0.10
不完全な動きまたはジャンプ、バランス、ローテーションにおいて形の大きさに欠ける
投げを伴わない移動： 身体 の 位置 を整える

0.10	0.30	0.50 またはそれ以上
バランスを失う：移動なしで余分な動きを入れる	バランスを失う：移動して余分な動きを入れる	バランスを失い、片手または両手で、または手具で支える
		完全にバランスを失い転ぶ： 0.70

2. 手具の喪失においては、審判が一番大きな落下に対して団体全体に1つの減点のみを与えることは明確である。不正確な軌道または不完全な形に関しては、同じ記載がない。これらの欠点を伴って、数名の選手が異なるミスをした。審判は、手具の喪失と同じ減点を与えるのか？

はい。なぜならこれらは一括減点であって、選手の数に関係なく1度のみ減点を与えることなので、最も大きな減点となりうる欠点を減点することになる。

3. リープ難度：1名の選手が20°以上の誤差（0.5）を伴う不正確な形、他の選手が15°の誤差（0.3）を伴う不正確な形で実施した場合、リープ難度に対する減点は0.5または0.8のどちらか？

いいえ、0.50の減点のみ。

4. 交換：2名の選手がそれぞれに3歩の移動を伴って手具を落下した。減点の合計は1.0か？

はい。

5. 交換：1名の選手が3歩の移動を伴う手具の喪失（1.0）、他の選手が3歩の移動を伴う不正確な軌道（0.5）を伴って受けた。減点の合計は1.0か1.5か？

はい-1.50。これらは異なる減点で異なるミスである。

6. 2つの手具を同じ要素中に連続的に落下、審判は1度のみの減点か？例：CRR2において素早い連続にて2つの受けを実施

各落下に対して減点、同時に落下していないから。

7. 2つの手具を異なる要素中に落下、しかし1つの手具の落下の原因が他の手具が落下したことにあつた場合、1度のみの減点か？

そのつど減点、なぜなら同時に落下していないから。